

科技高 いきものの記

Vol.56 2022.7.20

生物教員 佐藤龍平

実は潜るのも得意？！

アメンボの潜水産卵

仕事に疲れて猿江公園の池をボーッと眺めていると（※勤務時間外です。）、たくさんのアメンボが水面でペアになって交尾をしていた。すると突然、たまたま見ていたアメンボのペアがジタバタ暴れ始めた。何かと思って凝視していると、**なんとメスとオスがくっついたまま水中に入ってしまったのだ！**アメンボが潜水？！それともザリガニにでも襲われたのか？！すぐに近寄ってみると、水中の木の枝に**銀色に輝くアメンボがくっついてた**。驚いた...どうやら産卵のために潜ったようなのだ。しばらくすると、再びアメンボのペアが水上に這い出てきた。何事もなかったかのように水面生活に戻ったアメンボを見て、またまた驚いた。今まで水中にいたのに、**からだがか全く濡れていないのだ！**

アメンボはからだに細かな毛をたくさん生やして、水面で水を弾いて浮いている。産卵のために水に潜った時も、この毛のおかげで体の表面に空気層ができて、**体には水が触れずに潜水していた**のだろう。水中で銀色に光っていたのはこのためだ。逆にいえば、密に生えた毛で表面張力を増やしておきながら、反発する水の中に入っていくのだから相当大変なことだろう。暴れるようにもがきながら、苦労して水中に潜り込んでいた。（だからおそらく、木の枝などにつかまりながらでない潜れない。）

おそらく、水中の方が天敵が少ないからわざわざ潜って卵を産むのだろう。本来は水面を滑るように動くはずのアメンボが、突然3次元的な動きをしたので意表を突かれて見入ってしまった。



① 水面で交尾しているアメンボ
上がオスで、下がメス。2022.6.13



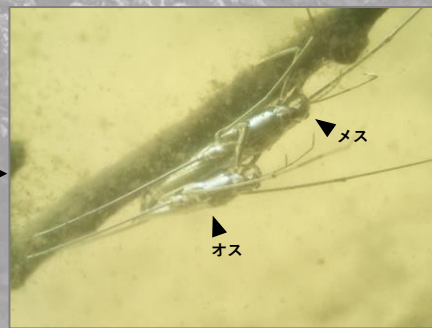
② ん？…ちょっと様子がおかしいぞ
木の枝につかまってもがくようにじ
たばたし始めた。



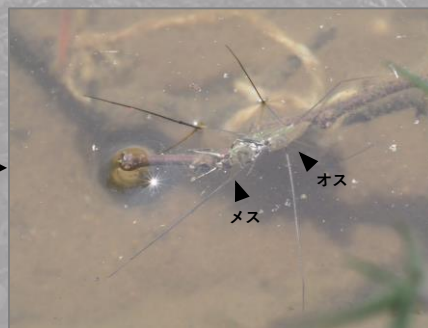
③ あ！水中に潜っていく！！
メスはオスを背負ったまま、木の枝をつたって水中に潜り始めた。
まるで異次元に吸い込まれていくかのようだ。



④ 完全に水中に入ってしまった！！
「アメンボが水中にいる」というのは何とも不思議な光景だ。



⑤ 水中の様子 腹側を上にして枝にしがみつき、卵を産みつけている。体が銀色に輝いているのは、空気層の層を身にまとっているからだ。



⑥ 産卵を終えて水面に出てくるところ
オスを背負ったままのメスが、再び水面に出てきた。オスは産卵中のメスが他のオスや敵に襲われないように守っている。（メスにとっては邪魔そうだな。）



⑦ 水面生活に戻る。
何事もなかったかのように水面をスイーッと移動し始めた。体が全く濡れていないのには驚いた。潜水時間は11分だった。